



祝 辞

福岡県知事

亀井 光

新玉の年のはじめの初春の

今日降る雪のいや重げ吉事 (家持)

九州環境管理協会にとっても、1972年が飛躍の年にならんことを願っております。

私達は、今豊かさと便利さを求めるあまりに、人類の将来の存続自体をもあやうくするような社会にすすんでゆくか、それとも環境を破壊することなく、豊かで便利な社会を創り出し得るかの重大な岐路に、立っているといえましょう。

一昨年来、日本列島にふきあれた公害の嵐の中で私達が学んだことは、以上の事であり、私達がこれまで暗黙のうちに期待していた大気や川の自然浄化力は決して無限のものではなく、このままの状態環境破壊が進行した場合、人類の生存基盤そのものすらも失われるであろうということでした。「大海の如き」と形容されてきた海を受容力も、地球の有限性が論議される現在、その意味を失わんとしております。

前進に前進に続けて来た公害対策も、以上の反省に立って今また大きな転換をむかえようとしております。発生源対策強化は無論であります、更に広い視野からの自然保護も含めた総合的な人間環境対策へと。

私は昨年8月、公害対策転換の布石として環境整備局を発足させました。一方、48年度開設を目途に対策の根本となる調査研究機関としての衛生公害センターの建設もすすめており、更に監視測定体制ネットワークの整備も着々と進行しております。

このときに当り、九州環境管理協会が装いも新たに快適な環境建設の戦に参加されたことは、まことに心強いきわみであります。

すぐれた環境が、私達にとってのみならず次代の人々にとっても、かけがえのないものであることを深く心にとどめ、ともどもに力をあわせて明るく豊かな福岡県の建設をすすめてまいりたいと思いません。

年頭にあたり関係者の皆様のこの上ないご多幸を祈ってやみません。